

第四章

藝術

子供が先天的に表現の要求を持つてゐるといふ事を證明するには、たゞ彼等に、繪具やクレヨン、紙或は粘土を與へさへすれば充分である。その粗雑な結果が表された時第三者は彼等に「創造的想像」を發展せしむる必要はないと感ずるのであらふ。しかし、なぐりがきや剪る事や塗たり搗いたりする事は、子供自身の實驗による方法と他兒や教師の暗示によつて進歩した技術に變る。表象的な表現は子供の環境の事物にます／＼似て來る。しかし子供の技術を進歩せしめ―自發的表現を失はずに、又獨創と新奇を失はずに、―その作品を實物に似させることは慎重の取扱を要する仕事である。或教育家は「放任せよ」と云ひそして藝術の訓練に於ては子供は自己救済を爲得るといふ事を明言してゐる。此の見解は極端であらふが、技術にあまり重きを置き過ると創造的想

像力の翼を刈り取り明瞭な觀念の表現にあまり重きを置きすぎると表現の慾求を止めると云ふ事は記憶すべきである。子供が活動するには「彼の心中の喜の爲に、彼自身の運命に」時期があるに違ひない。

一般目的

表現の希望を充たす爲に、そして創造的想像を發展させる爲に。

色と配列の感じを發展せしむる爲に。

思考を明かにする爲に。

子供に自然の美を見得る爲に又藝術品の美を見得る爲に、そして藝術と云ふ媒介物を通して新しい見地から彼自身を表現する様に試る爲に。

特殊目的

材料を更によく扱ふ爲に。

事物を一層明確に見る爲にそして考を一層明かに表す爲に。

色彩と配列を一層意識的に用ふる爲に。

主題

1、子供の對自然及人の經驗は表現の爲に―幼稚園

要目の中にある様な——多くの主題を提出する。此の表現は祭禮執行の爲にある美的の形になる。

a、自然、果實、花、果物、日、月、動物、各季節の子供の遊び。

b、工業と作業、家族、それ等と關係ある物、——家具等の如き、——各職業従業者の活動。

2、ハローウケン、クリスマス、フシントン誕生日、リースター、メイデーの祭禮は、その室内裝飾にリズムカルな配列を提出する。クリスマスカード、リースターカードやヴェランテンのや又、宴會の招待状を飾たり、作たりする事は藝術的の仕事に多くの動機を與へる。此の様な仕事の配列單位の準備として、子供達に模範を與へる時には、模範を選ぶのに教師が明確な藝術標準を持つにあらざれば、又其單位が種々な配列に或る機會を供給するにあらざれば藝術の價値は無い。でなければ子供達は此の仕事を自己表現の手段として用ひる事は出来ない。

3、クレイヨン畫や水彩畫、剪り紙、タイブライターで書いたお話や詩——幼稚園の子供の自作のもの——を集めた本が一年中かゝつて作り出される。は

じめに畫が作られてから言語が畫を説明してもよいし又その反對に言語が先でその後で圖解してもよい。次の詩は幼稚園の子供作例である。

お月様が日本のクリスマスストリーを見てゐる
農夫の育てた三個のカボチャが並んでる
メリーは薔をたべてフェアリーになつた

此の本は園藝、農事の本、サンタクロースの本、母の仕事或は家事の本といふ様に、日程の摘要として役に立つ。又此の本の内容は言語と書き方の價値ある相互關係に機會を與へる、表紙を飾る事は圖案をするといふ事の動機となり、本をまとめると作るといふ事は工業的の仕事を提供する。

4、人形の家に家具を配列したり、紙人形に着物を着せる事は製作の章で指示した様に多くの藝術目的を持つてゐる。

5、お話や詩は作品によい暗示を與へる、しかし幼稚園の子達は自由に使はない様な物をより想像的な繪に畫くものと豫期してはならない、又あまり多く觀念の關係を要するような仕組みを表すものと期待してはならない。たとへば「三匹の豚」の話は二種の動物の繪を畫くことゝ異な種類材料で

建てた三つの家を建てる事と、攪亂器、林檎園等を要求し、各挿話が物語の頂點に達す處に筋が仕まれてゐる。ある簡單な歌或は詩は圖解するのによい。たとへばハムプティバムティは(づんぐりむつくりした道化)大層書きやすい、といふのはそれは丁度子供が書く人の形によく似てゐるからそれと總ての子供の先生達が親しみ深い人の形に似てゐるから。

遠足の如き直接經驗は作品の爲によい材料を供給する。子供達は幾度も衆の中にそびえてゐる教師と一處に長い列を作てゐる自分達の繪を畫く。遠足の目的地はこゝに略す。消防機械であらうと藝術博物館であらふとかわまない、社會的經驗が最も深い印象を與へるのである、然し要するに之は眞の藝術であり、生々とした經驗の繪畫的表現である。幼稚園要目に於ては、材料を取扱ふ事や考を發表する事についての子供の興味から技倆の部分丈を離して増すといふ必要はない。仕事は常に動機を伴はなければならぬ。「棒さし」のような色で角形を充たす様な事は價值がない。

一般目的に關した方法

表現の望を充す爲に創造的想像を發展させる爲に自由發表の機會—紙、硯、畫具、クレイヨン、粘土とする—が與へらるべきである。子供の最初の發表は觀念によつてであつて、實物によつてではない。それにつきジョンデューは曰く、

「物を畫くにも子供は彼の想像から畫くのであつて物そのものではない、子供が發表する想像を、生かし自由に爲得る様になると其の時又原の形に歸て來る。或意味に於ては此の時代には技倆といふものはない然し技倆に相應した心理的要素がある—即ち運動的表現が明白な心象の刺戟と相並ぶか若しくは之に支配される—之が訓練によつて本來の技倆と呼べるゝ處のものになる。最初の思考は「爲る事」即ち使用である、使用の後に方法が來る、「如何に爲るか」といふ方法が。扱方法はそれ自身の爲に成立するのではない。よりよい自己發表の爲にそしてもつと興味あり充實した「爲る事」の爲にである從て次の二點が生ずる、技倆は自由な想像的發表から生じなければならぬそしてそれは内部から成長してかような想像的發表とならねばならぬ。」と。

色及配列に就いての感じを進展せしむる爲に。

1、色、子供の色を好む事を満足させるには彼自身を發表する色の材料を與へればよい。クレイヨン水彩畫具と色紙、幼稚園では色鉛筆よりクレイヨンを使ふ方がよいと云ふのは彼等は色の感じを充たすと同時に鉛筆よりも幅廣な柔かい線を與へるからである。色の配合は未成であらふとも子供の最初の發表は自由であるべきだ。子供の華麗な色を好む心を或程度に充す迄は、進歩した美的な彩色とか色合かは與へられない。子供は屢々野蠻的な配合をする事があるそれは原始的藝術と同様に無意識的に美しい。かような結果が最初は偶然に起るが教師の選擇と奨勵によつて彼等はもつと意識的に基礎を形造られる。子供が材料道具になれるに従て教師は調和のよい色合の背景を與へたり或は屢々色の選擇を定限したりしてその結果を誘導すべきである。

2、配列

子供の自由製作に於て多くの無意識的な配列の例をみる。例之ば子供は夜景をそのまゝ畫く代りに紙の上に月や星の連續を作る。此配列に於ける興

味は幼稚園の室の裝飾を工夫する事で又バスケットやお皿、紙人形の着物等を飾る事で—それ等は工夫に大層誘導的な型を與へる—發展させられ又もつと智的にさせられる。

材料の使用は—それは自然に單位を繰り返し或は圖示といふよりも整然とした配列に導く處の—棒さしや、球つなぎ、自然物つなぎ等の如きもので總ての考案の興味を進展せしめる。

考を明かにする爲め。

一般に、發表は觀念を具體化して思考を明かにするものである。然し若し教師が兒童の達する結果を價值あるものと認めないならばそして又仕事の動機を與へる事に失敗するならば結果の性質効果は増進せず悪くなる。教師は幼稚園の製作品の陳列とか他の幼稚園の訪問とか云ふ事の結果思ひついた様な結果をあまりに屢々子供の考案として課する。これらの結果はそれ自身には何の價值もない、ただ之に携た群には缺くべからざる重要な問題の遂行を表してゐるものであるから、其處にのみ多少の價值があるのである。仕事に動機のあるといふ事はその發表を知的に成長させる。

「何」如何」と云ふ問題は子供の實驗にたえず起て来る事であつて、それは教師によつて明かにせしめらるべきである。材料を使用しはじめの時の特徴である本能的な活動は變化して明確な思考作用を營む活動となる。「教師の模倣」―それは幼稚園や小學校に於てあまりに屢々用ひられすぎた―は、教師が教へた結果をたゞ機械的に子供に繰り返へさせるだけで、自分自身の方法を考へさせない。此の自分で自分の方法を考へることがすべての發表の主要價値の一である。

鑑賞の進歩

活動は智識への子供の鍵である。摘む事が出来る故に子供は花を好む。然し子供が花の美しい色を表現する様になると繪を畫くといふ活動は對象に對する新しい態度を子供に與へる、子供自身の計畫なるが故に生ずる所の作品に對する興味は、作品の對象である物に就いての興味を引き起し、斯くして子供の態度を一層智的ならしめ、これが次の努力の基礎となる。經驗を具體化するといふこの事が子供に他の人の繪をより興味深いものとする。これが繪畫鑑賞への一歩である。

特殊目的に關しての方法

構成材料の扱ひ方の熟練

どの材料でも最初の興味は手で扱てみる事である。その結果は第二である。前にも述べた様に、なぐり書きは、しつかりした線や色を平に塗る事へと進歩し、塗たり擦たりする事が進歩して水彩を用ふる様になる。子供が實驗の時期を過ぎそして、技巧が進歩すると、彼等は自分の作品や其他の同種の作品を批判する様になる。或子供は繪に畫いた水を見て「これは髪の毛の塊の様だ」と云た。線がもつと平行に畫かれさうなものと思つたからである。子供が畫く時には無線描法を用ひないで彼等は本能的に線で畫く様である。しかし色の塗抹は技巧を増すから線畫と相關係して無線畫が暗示されて来る。たとへばボートは輪廓を畫くが水は一面に塗抹する。兵隊や水兵はちやんと畫かないで棒の様に畫く事も出来るが扱て軍服を畫くとなると充分な滑らかな畫き方の必要が起る。作畫を集めた本は使用した色彩の各個で裝飾した表紙を附けてもよい。

團體的な製作を教へる場合には子供達は、年齢とか幼稚園に長く居たとかいふ事に依てでなく、彼等

が一定の材料を使用し得る能力によつて區別されなければならぬ。かくしてまだ實驗の時代にある子供達が極めて自由に材料の實驗をしてゐる一方では、進んだ表現の形式を欲したり或は同一の事を繰り返さうとする傾向のある子供達も訓練の利益を受けて行く事が出来る。

物を一層明瞭に見る爲に又考を明確に表す爲に。

多くの幼稚園時代の子供達はまだ實物寫生をする程發達してゐないから最初は先づ物を想像的に表現する段階から出發しなければならぬ。しかし幼稚園幼児にも可成進んだ程度で事物を精密に細部を把へて畫き得るものもある、彼等は國旗をよく視てその正確な色、地色と旗竿の正しい關係、地と縞との正しい關係を畫き表す事が出来る。この様な發達の程度にある子供は多少割合の觀念を以て時計を畫く。そして小さい子供達がする様に單に印をつける代りに時計の盤面の周圍を多少具體的に象つて其の早熟能力を示す。かういふ風な畫き方は畫き方の能力と何か關係があるらしい。それは又用器畫と静物畫のはじめである。然しこれを以て想像畫の代りとしては決してならない。幼稚園要目の中には汽車や家を畫

くような、斯る表現の形式を助成する題目があるから。春には、猫柳の枝や野の花や子供達の植えた、ヒヤシンスを、形や色を正す事を考慮して、描かせた事が出来る。しかし子供達が畫くのに小枝を無差別に見、地面から花を生やし、花や莖をかくのに赤と緑を無差別に使ふ時には彼等はまだ物を寫生する期ではない。一群の子供に教師がピタスケットの小枝をよく見せて畫く様に與へた時、彼等は單に實を畫くものと思つて點や線の種々な配列を作り上げ、それは非常に裝飾的しかし單に實を表して居る丈で實際のものど少しも似てゐなかつた。

意識的に色や配列を用ふ爲に。

前章に提出した様に仕事をもち考へてする様に動機を與へる事、たとへば小さい子供達は、選擇どか配列どかを少しも考へないので、一頁の上へあらゆる物を撒き散らす。一頁毎に畫をかけた本を作る事は考と配列を秩序正しくする。要目の主題に依て考が一層明瞭にされた時には、子供の作品も斯る性質を反映し、教師が力を入れる點が一つの繪畫に含まれてゐる事物の相互關係に表はれて来る。

題材が圖解といふよりは裝飾的である場合には、

裝飾される物が其れに妥當な色彩と意匠を規定する。たとへばハローウキンの祭にはオレンジ色やこげ茶色、クリスマス期には緑と赤が、お皿とかバスケットとか其他祭禮に關係する物に適用される。人形の家は壁紙や敷物に適應する色や模様の調和の關係に大そうよい題材を提出する。

效果

1、態度、興味、嗜好

圖畫藝術の媒を通して、觀念と情緒とを表さうとする熱心と悦び。繪畫に對する一層智的な興味。色、形、配列に對する感じ。

2、習慣、技巧

材料使用に於ての順序正しき習慣。或程度の技巧で藝術の材料を使ひ得る能力。

3、智識、

他人へ思想を發表する形式の觀念
藝術の材料に依て考を表現する爲に生ずる要目の主題についての更に明確なる觀念。

○
豐國幼稚園の馬場先生からは毎號貴い資料をお送りいただきほんとうに讀者のたれかれが續きをまちかれるようにして居ります事をき、ました。心から御禮申し上げます。

編輯室の都合で本月は臨時に發行日を變更しなければならなくなりました事を皆様の前に許して頂きたい。更によい六月をお送り出来るようにと祈りながら、(R子)